

# 史料で語る歴史学

同朋大学文学部人文学科専任講師

金山 泰志

## 1. 歴史学の考え方

### ◆歴史は科学である

・ごく単純な史実を求めるのにも、一つ一つ根拠を挙げ、一定の手続きに従った分析を行うことが求められる。

・歴史学では科学性の根拠となる歴史資料、つまり「史料」がなんといっても重要！

### ◆『詳説日本史』（高校教科書）の記述

「1894年〔明治27年〕8月、日本は清国に宣戦を布告し、日清戦争がはじまった」

・根拠となる史料は？→参考資料

◆単に史料があればいいわけではない。その信憑性・信頼性が常に問題となる。

→「史料批判」という。 ※史料批判≒裁判

⇒史料批判がデタラメであれば、犯罪捜査で証拠収集がいい加減なのと同じ。その研究には何の価値もない。

## 2. 実際に史料を見てみよう

◆近代の史料・・・日記・回顧録・新聞・雑誌……etc

◆「少年雑誌」なども貴重な史料

・日本の児童文学の発生を考える上で重要な存在

→主に国文学で取り上げられていた。

・当時の少年雑誌は学校教育の補助的役割も果たす総合的学習雑誌。

・少年雑誌の登場の背景にあるのは、近代教育の確立・普及。

→教育界からの要請があった。加えて、活字印刷技術の革新的進歩なども。

◆実際に当時の少年雑誌を見てみよう！→参考史料

◆少年雑誌が史料としてなぜ有用か

・定期刊行物であることから、時事の事柄が誌面に如実に反映される・

・児童期（小学生期）・・・国策の指導層から一般民衆層に至るまで誰しもが体験するもの（明治期は小学校卒業後の進学率も低い）。

→少年雑誌は重要な時期に人々が享受していた考えられるメディア。

・大人（编者・記者）が子ども（読者）に向けて提供したものであったことから、少年雑誌の誌面には大人から子どもにまで通じる最大公約数的評価が表れていたといえる。

☆当時に存在していたモノ（非文字資料も含む）は全て史料になり得る。

☆現代我々が何気なく書き記しているもの（ブログ、SNSのTwitterなど）も数百年後の研究者にとっては貴重な史料となっている可能性もある。